

### 3. 社会貢献活動の事例 — 功労者表彰受賞者の活動事例から抜粋 —

#### 3. 1 代表的な活動事例

ここでは、平成 30 年度に顕彰した活動事例のうち、代表的なものとして「建設業社会貢献活動推進月間中央行事」で事例発表された次の 3 事例を紹介します。

No.	都道府県	協会・支部・企業名等	活動内容
A5-03	長野県	長野県建設業協会南佐久支部	玉菊を手作り栽培して配布・展示する「菊で一杯運動」
A6-01	秋田県	(一社)秋田県仙北建設業協会	「毎日が誇りまみれ。」の標語のもとで建設業の魅力発信
B7-01	北海道	道興建設(株)	豊平川におけるサケ産卵環境の改善

#### (1) 玉菊を手作り栽培して配布・展示する「菊で一杯運動」(長野県建設業協会南佐久支部)

##### 事例 A5-03 : 長野県

##### 玉菊を手作り栽培して配布・展示する「菊で一杯運動」(長野県建設業協会南佐久支部)

長野県建設業協会南佐久支部では、地域住民に建設業への理解と親しみを深めてもらおうと、会員 26 社が毎年、5 百数十株にのぼる玉菊を手作り栽培して、地域の中学校や役場、消防署、JR 駅等の施設に配付・展示する「菊で一杯運動」を続けている。

長野県東部に位置する南佐久地域は、日本一標高が高い役場(1,185m)がある川上村に代表される高冷地であり、玉菊を育てるには絶好の環境といえる場所である。そこで同協会は、会員が一致団結して玉菊を栽培したらきつとうまくいくだろう、それを鉢植えにして配ることで、厳しい冬を迎える前のひと時、地域の人々に楽しんでもらおうと考え、「菊で一杯運動」を始めることにした。

玉菊の栽培は、3 月下旬、前年に畑に戻した株を覆っていた藁を外し、柔らかな日差しを与えることから始まる。6 月には新たな苗を植え込み、夏からは、近隣の住宅に迷惑を掛けないように草刈りをしたり、風の強い日は埃が舞わないように散水したり、作業で道が汚れたときは速やかに掃除をしたり、神経を使いながら玉菊の成長を見守っていく。

10 月下旬、立派に成長した株を掘り起こして鉢に植え、各施設に出荷する。会員たちが自然の力とありがたさを感じるとともに、農家の人々の苦勞と喜びを少しでも味わうことができる瞬間である。



「菊で一杯運動」(土木の日に撮影)



南牧村役場の玄関を飾る玉菊



玉菊の畑の整備



苗の植え込み（6月）



有資格者による草刈り（7月）



ドーム型に成長した玉菊（9月）



重機による株の掘り起こし（10月）



きれいに仕上がった玉菊の鉢

目的達成のために一致団結すること、地域とのふれあい、笑顔、そして作業の後の「盃で一杯」の大切さを会員たちが学んだことが、「菊で一杯運動」の大きな成果でもある。

この活動に対して、多くの人々から感謝と喜びの声が寄せられた。

- ・毎年お願いします。（中学校）
- ・育て方、作り方を教えてください。私もいっぱい花を飾りたい。（近所のお爺さん）
- ・あまりに見事なので、ホームページにアップさせていただきました。（佐久地域振興局）
- ・ぜひ販売してほしい。（商店主）
- ・毎年、若い人たちが頑張っているのを見るのが楽しみだよ。（地主のおばあさん）

花には人の心を安らかにしてくれる不思議な力がある。

同支部は、「菊で一杯運動」が建設業のイメージアップと若手の入職促進にも繋がることを期待して、今後もこの活動を継続したいとしている。

## (2)「毎日が誇りまみれ。」の標語のもとで建設業の魅力発信（(一社)秋田県仙北建設業協会）

事例 A6-01：秋田県

### 「毎日が誇りまみれ。」の標語のもとで建設業の魅力発信（(一社)秋田県仙北建設業協会）

秋田県仙北建設業協会は、「毎日が誇りまみれ。」の標語のもと、地元の高校生に向けてポスター、リーフレット、ガイドブックを制作して、建設業の魅力を発信している。

#### ■活動の始まり

会員からの一言「会社のパンフレットはあるけど、建設業そのものをPRするパンフレットは協会で作ってないの？」がきっかけで、秋田県が平成27年度より公募を始めた「建設業担い手確保育成支援事業」に応募し、採択されたことが活動の始まりとなった。

早速、協会青年部役員を中心に広報委員会のチームを立ち上げ、先進的な地方協会から手法を学びながら、事業計画を作成した。

#### ■活動テーマと成果品

活動の成果品としては、ポスター、リーフレット、ガイドブックの3点セットに的を絞った。ターゲットは地元就職を考えている高校生や若者、ポスター・リーフレットのキャッチコピーは、有識者の助言をもとに「毎日が誇りまみれ。」と決定し、これを活動のテーマとして掲げることにした。

「毎日が誇りまみれ。」は、人々の暮らしを守る建設業の現場には、仕事への「誇り」が毎日溢れていることを表現している。

ガイドブックは、建設業の生の声を通じて、その役割と魅力を高校生向けに分かりやすく紹介する内容とした。

成果品に共通する想い（目的）は、「建設業に興味を持ってもらうこと」「地域に人を残すこと」であり、「地域で育てた人材で地域に貢献できる“地育地献”」が最終目的となる。



「毎日が誇りまみれ。」ポスターとリーフレット



建設業のガイドブック

## ■活動の効果

完成した「毎日が誇りまみれ。」プロジェクトの成果品は、会員たちによって、さまざまな広報活動で活用され、業界関係者にとって大きな力となった。また、地元新聞等マスコミで大きく取り上げられたことで、一般の人々からも思わぬ反響があり、地元の建設業＝（イコール）「毎日が誇りまみれ。」というイメージが定着していった。

なお、「毎日が誇りまみれ。」のフレーズと図柄は、同協会の地域活動におけるシンボルとして、平成 28 年に商標登録された。



「毎日が誇りまみれ。」ブルゾンで統一



ブルゾンを着用しての地域活動

## ■その後の取組み

この活動は、平成 28 年度以降も、秋田県の「建設業担い手確保育成支援事業」として採択され、平成 28 年度は、「僕たちの仕事が道になる。」の新キャッチフレーズで、第 2 弾のポスター制作を手掛けた。

平成 29 年度には、スマートフォンからも見られる協会専用ホームページを立ち上げ、業界の魅力を伝える動画や、ガイドブックの誌面をアップした。また、ガイドブックの内容を抜粋・再構成したオリジナルの就職活動支援冊子「誇りまみれノート」を制作し、企業説明会などで地元高校生に配布した。

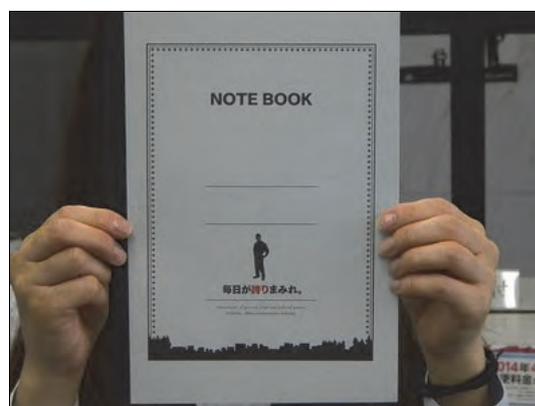
## ■今後の展開

3 年目となる平成 30 年度は、11 月に予定されている女性部会の発足に合わせて、次なるステップとして、女性活躍目線での魅力発信に取り組むとともに、新たなプロモーション動画の制作、企業説明会への業界団体としての参加などを予定している。

同協会では、外部に向けた魅力発信だけでなく、離職率の高い 20～30 代の若年就業者向けのフォローアップ研修の開催など、次代を担う人材の確保・育成の新たなモデルを構築したいと考えている。



「僕たちの仕事が道になる。」ポスター



就職活動支援冊子「誇りまみれノート」

### (3) 豊平川におけるサケ産卵環境の改善 (道興建設(株))

事例 B7-01 : 北海道

#### 豊平川におけるサケ産卵環境の改善 (道興建設(株))

道興建設(株)は、札幌市を流れる豊平川中流域におけるサケの産卵環境の改善を目指した産官学共同プロジェクトに参加して、改善試験の測量・設計・施工を担当している。

#### ■豊平川とサケ

豊平川は、昭和 53 年に始まったカムバックサーモン運動の効果もあって、例年秋から冬にかけて、約 2,000 尾のサケの遡上が見られ、うち半数以上は自然繁殖の野生魚という都市部としては世界でも貴重な川である。

しかし、市街地では日本有数の急勾配のため、上流域では河床の低下による岩盤露出、下流域では土砂堆積による砂州形成が進み、サケの産卵場所が年々減少している。

平成 24 年には、専門家や有識者からなるボランティア団体「札幌ワイルドサーモンプロジェクト (SWS P)」が、河床の整備を始めたが、新たな産卵確認には至らなかった。

そうした中、平成 29 年度には行政も動き出し、国土交通省北海道開発局が中心となって「サケの産卵環境改善試験」プロジェクトが計画され、この時「河岸保護工事」を受注していた同社は、試験への協力を申し出て、測量・設計・施工を担当することになった。

#### ■産官学共同プロジェクト

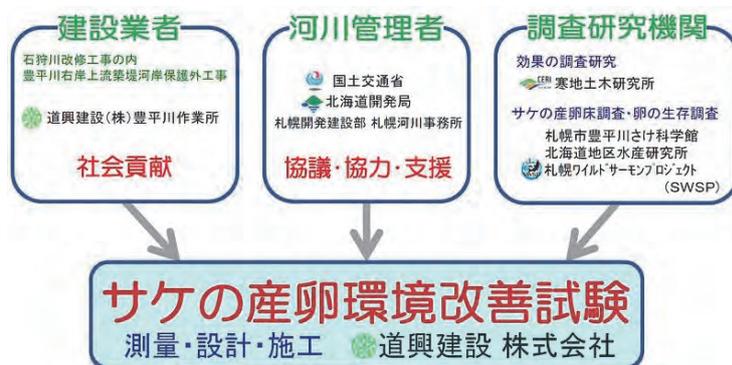
「サケの産卵環境改善試験」プロジェクトは、河川管理者 (国土交通省北海道開発局)、調査研究機関 (寒地土木研究所、豊平川サケ科学館、SWS P、他)、建設業者 (同社) の三者で組織された。また、試験によって漁業への影響が出ないように、石狩湾漁業協同組合と協議を重ねた。

試験地は、豊平川中流部、石狩川との合流点から上流 12.2 km の左岸で、湧水があり、過去にはサケの産卵場所となっていた窪地 (以下、ワンド) と決まった。

ワンドでは、砂やシルトが礫の河床上に堆積しているため、サケの産卵床が減少している。今回の試験は、上流での砂州の発達により水が流れなくなったワンド内で、流路跡に掘削路を造成し、本流から分岐流入させて砂やシルトを洗い流すことで、サケの産卵に適した礫河床が形成されることを確認するための実証試験である。



札幌市街地を流れる豊平川



協力:石狩湾漁業協同組合・建設コンサルタント・報道(新聞・テレビ)

プロジェクトの組織構成



礫河床形成の概念図

平成 29 年 8 月 2 日、河川管理者、調査研究機関及び同社による現地打合せが開催され、施工概略が決定した。その後草払い・着手前測量を行い、掘削断面等の詳細施工計画を立案し、関係者で協議を繰り返した。9 月 12 日には関係者が再度集まって現地打合せを行い、詳細な施工手順を確認した。

9 月 25 日、関係者立会いのもと、いよいよ掘削水路の造成が始まり、翌 26 日にかけて、延長 120m、河床勾配 200 分の 1、水路下幅 1~2m、法勾配 1:1 程度の水路を掘削した。その後完成後測量を行い、工事記録と合わせて試験結果を取りまとめた。これらの情報は、河川管理者、調査研究機関と共有することで、今後実施される調査研究の資料とした。



ワンド上流部の流路跡



掘削水路の造成

### ■プロジェクトの効果

豊平川は、完成した水路を経てワンド内に常時流入するようになり、掘削前には最大 32 cm 堆積していたワンド内の細粒分は、およそ 2 週間で、全ての測定地点で 5 cm 以下に減少した。

一方、水路では側方浸食が進んで流路幅が広がり、ワンド内に礫が供給されて礫河床の形成が認められ、掘削水路造成の約 1 ヶ月後、水路区間及びワンドでサケの産卵河床が確認された。

試験地の産卵床数は、平成 28 年の 9 箇所から、水路区間を含めて 24 箇所に増加し、過去 5 年間で最多となった。サケの産卵環境は想定した以上に改善されたと言える。

今回の活動は、テレビや新聞でも大きく取り上げられて、豊平川の現状に対する市民の関心が高まり、さらなる環境保全活動へと繋がることを期待されている。

同社は、今後も環境に配慮した工事施工と保全活動によって、地域を守る建設業としての役割を果たしていきたいとしている。



水路造成前



水路造成後



復活したサケの産卵河床